ラジオ放送にオアシス期待

日本でラジオ放送が始まって今年で９０年になる。私とラジオとの出会いは、物心ついた頃からだ。朝なタなラジオに耳を傾けていた。

高校生の頃、我が家にＴＶが入ると茶の間からラジオの姿が消える。そのためラジオが自分専用になり、もっぱら大学受験講座を聞く。どの講師もかゆい所に手が届くように分かりやすく丁寧に指導してくれる。時には、ユーモアを交えて語り掛ける。目の前で家庭教師から実際に個人指導を受けているような感覚だ。電波を通して講師のぬくもりまで伝わってくる。

大学生になると、深夜放送に出会う。パーソナリティーがリスナーの葉書を紹介して、それについてコメントを加えながら番組を進める。語り掛ける口調が普段着のままなので、パーソナリティーとの一体感が生まれる。合間には、リクエスト曲が織り込まれる。若者のオアシスのような空間だ。

現在では、ぬくもりとつながりを求めてＮＨＫの「ラジオ深夜便」という番組にはまっている。

これからのラジオ放送には、リスナーにとってぬくもりとつながりであふれるオアシスのような番組が増えてほしい。そんな番組にダイヤルを合わせたい。